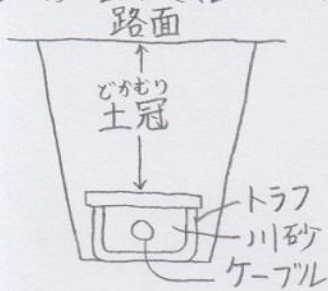


213. 直接埋設式と管路式

直接埋設(直埋)式: 地面を溝状に掘り、コンクリートトラフなどの防護物内にケーブルを布設する方法

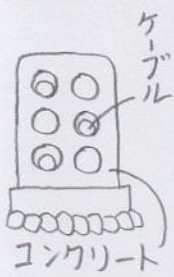


土冠(どかむり): ケーブルの深さ

- 一般の場所: 60cm以上
 - 重量物の圧力を受ける恐れのある場所: 1.2m以上
- ※使用するケーブルの種類、施設条件などを考慮し、これに加わる圧力に耐えるよう施設する場合は、この限りではない

- ケーブル布設のつど、地面を掘削する必要がある
- 布設条数が少なく、増設の見込みの少ない場合で、歩道や構内などの硬質舗装でない所、線路の重要度の低い場合などに採用される
- ◎安価 ◎ケーブルの熱放散が良い → 許容電流が大きい ◎ケーブルの途中接続が可能 → ケーブルの融通性が有る ◎多少の屈曲部は布設に支障が無い ◎工事期間が短い ◎ケーブルが損傷を受けやすい ◎ケーブルの引替え、増設が困難 ◎保守・点検が不便

管路式: 数孔から十数孔(図は6孔)のダクトを持ったコンクリート管路などをつくり、これにケーブルを引き入れる方式



- 適当な間隔に人孔(マンホール)を設け、ケーブルの引入れ、撤去、接続は人孔の中で行う
- ケーブル条数の多い幹線や増設が予想される場合、硬質舗装で交通量などから、将来掘削ができない場所に用いられる
- ◎予備孔が有る場合、ケーブルの引替え、増設が容易 ◎故障復旧が比較的容易 ◎ケーブルが損傷を受けにくい ◎保守・点検に便利 ◎工事費が高い ◎工事期間が長い ◎条数が多いとケーブルの許容電流が小さい ◎ケーブルの融通性が少ない(人孔間隔単位となる) ◎伸縮・振動によりケーブル金属シースが疲労する ◎管路の湾曲が制限される



60cmと1.2mは覚えておくわ

土冠の深さは法規の範囲にも入るから

ケーブルの布設方法について、直接埋設式、管路式、暗きょ式の3つがあるが、今回はコストの少ない方から順に、2つ説明しよう

